

令和3年度第1回森町行財政改革推進委員会 委員意見要旨

1 開催日時

令和3年11月30日（火） 19:00～21:12

2 議事及び事務局説明事項

(1) 第3次森町行財政改革プランの進行管理について

主な項目の成果指標の実績、成果指標の目標を更新したものについて説明

3 委員意見要旨

- 改革の柱が5本あるが、その中で上手くいっているのはどれで、上手くいっていないのがどれなのか分かった方がプランの評価がしやすいのではないか。例えばDは未着手、Aは予定どおり、Bはまあまあ、Cは不十分。これに対して3割未達ならC評価とするなど。わかりやすくすると同時に、しっかりやらなければいけないものについて随時詰めていく方が、達成度が上がるのではないか。
- このプランが5年間であるが現時点で3年半が経過しようとしている、こういった計画はある程度中間で総括をして、プランそのものをチェックする必要がある。
- 毎年PDCAをまわすかたちとなっているが、例えば2年連続で目標計画を3割とか5割下回るとか一定数字を下回って続けているというのは、相当問題があるのでそういう状況になっている。PDCAを活かすことができていない状況であり、その点をしっかり詰めた取り組みが必要である。
- プランの進行管理表の実績値について、全体的に目標値と実績値が乖離しているものが見受けられる。これは目標が高すぎるのか、目標値は妥当であるが事業の効果が出ていないのか。また予算編成にリンクされているのか。
- 着地点（目標値）について、全体（分母）が分からない中での目標数値に対する評価ではどの程度進捗が図られているのか分からないので、全体を見た中での目標値と達成値を示すことも必要である。
- 上水道の取り組みで水源の廃止があったが、全体像が見えない状況での取り組みであるため評価ができない。プランの成果指標設定では経営的視点で捉え直す事が必要では。
- 自転車の活用があった、自転車に乗って回遊できるようなルートが明確にわかるように、案内看板やルートマーキング（青い線など）の取り組みが必要では。

- ルートマーキングとして道路に線を引くのは点を線で結ぶこととなる。マップやSNSで読み取るなどの方法と組み合わせて是非取り組んでいただきたい。
- 地域おこし協力隊員が地域と上手く連動して地域振興をやっていくには、行政もそうだが地元との繋げ役が必要。空き家空き地バンクも同様で、移住後の仕事のフォローなどトータルサポートの取組が必要だと感じる。
- 業界と業者、皆さんと生産者、それぞれが連携できる取組ができないかを感じる。個々の伝統ある家屋も連携することで小京都の町並みの構成要素となるし、トウモロコシや次郎柿も買い求めてきた方がそこで売り切れていたらどこで買うことができるのかなど、連携と協力の取組ができないかと思う。
- 遠州の小京都森という名前のイメージは浸透しているが、行ってみてどこに行ったらよいかというのは、ちょっとがっかりしてしまう人が多い。個々の魅力を連携させることで、来訪者がどこに行けるか案内できるなど、客を逃さない魅力をアップするような方向を期待したい。
- リノベーションとか空き家の関係は、当然価格交渉がある。行政ではそこに当然関与できないので、当事者同士で行う時にも不動産屋さんや地元の所有者に対して間に入る人を養成するなどの取組が必要では。リノベーションについてもリノベーションスクールなどの取組があるので参考にしてみようか。
- 企業さん等にも協力いただき、コンビニとかが少しシックな茶系であったり、外灯が一工夫されて町並みに溶け込むようなイメージなど、町全体で小京都を演出するような取り組みが必要。併せて、町内観光地の点と点とを線でつなぐ案内が必要である。
- 待機児童が出ることそのものが森町という小さな町では大きな問題だと思う。幼稚園の認定こども園化等による保育需要受入の拡大により、森町に来たら預けられる場所があるということが大きなPRになる。町が積極的に進めるべきでは。
- 働き方改革で定時に終わるのは会社の基本としている、このような会議も時間内開催でできるのであればそうした取組ができるのではないか。

以上